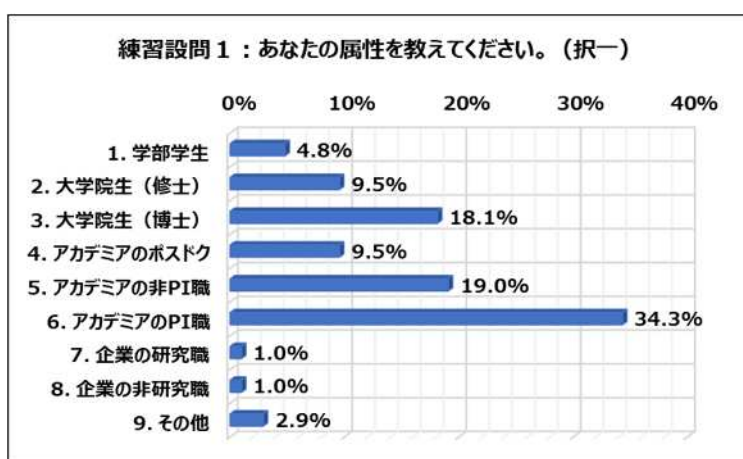


キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2022

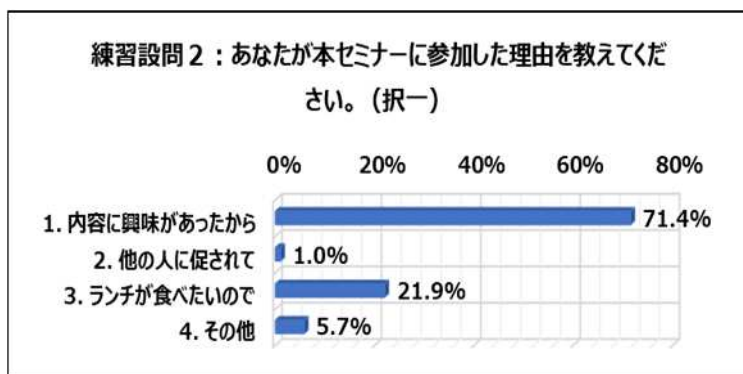
「研究室の働き方改革～withコロナ時代のネクストスタンダード～」

セッション中のアンケート結果・参加者コメント

練習設問 1 : あなたの属性を教えてください。(択一)		
1. 学部学生	5	4.8%
2. 大学院生 (修士)	10	9.5%
3. 大学院生 (博士)	19	18.1%
4. アカデミアのポストク	10	9.5%
5. アカデミアの非PI職	20	19.0%
6. アカデミアのPI職	36	34.3%
7. 企業の研究職	1	1.0%
8. 企業の非研究職	1	1.0%
9. その他	3	2.9%
	105	100.0%



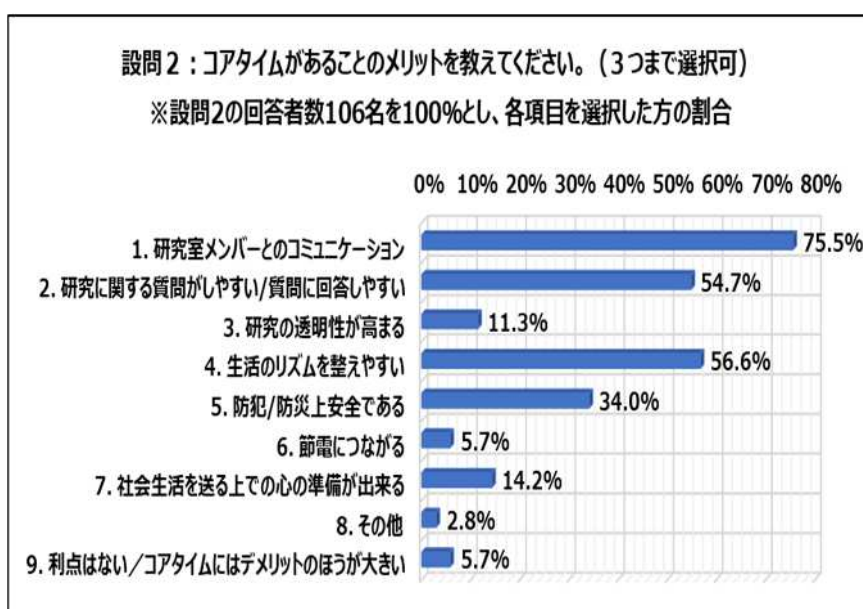
練習設問 2 : あなたが本セミナーに参加した理由を教えてください。(択一)		
1. 内容に興味があったから	75	71.4%
2. 他の人に促されて	1	1.0%
3. ランチが食べたいので	23	21.9%
4. その他	6	5.7%
	105	100.0%



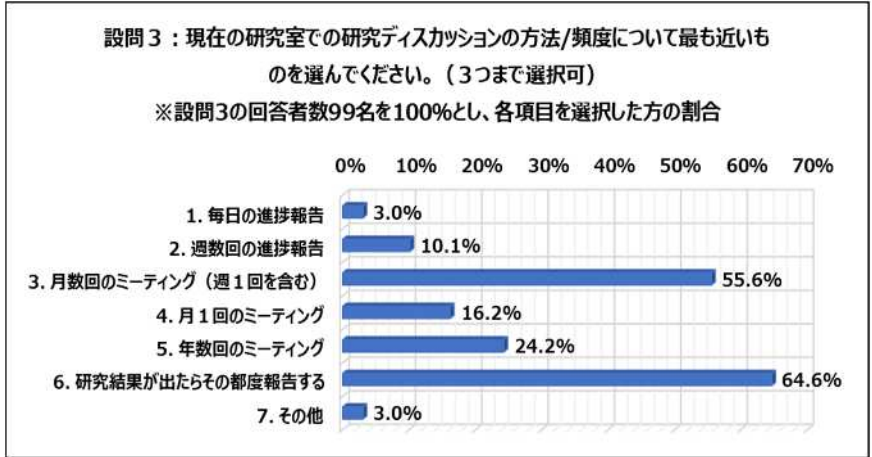
設問 1 : あなたが所属する研究室にコアタイム (ラボに滞在することが期待されている時間帯) はありますか? (択一)		
1. ない	50	47.6%
2. ある (3時間未満)	3	2.9%
3. ある (3時間以上～6時間未満)	9	8.6%
4. ある (6時間以上)	43	41.0%
	105	100.0%



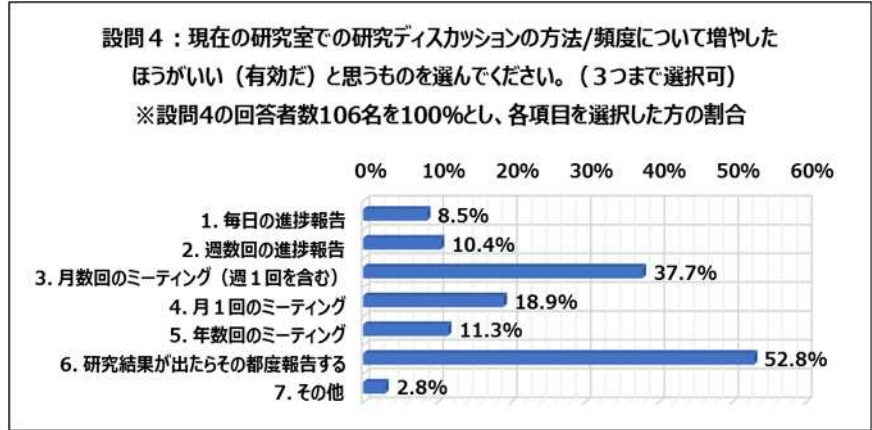
設問 2 : コアタイムがあることのメリットを教えてください。(3つまで選択可)		
☆: 設問2の回答者数106名を100%とし、各項目を選択した方の割合	☆	
1. 研究室メンバーとのコミュニケーション	80	75.5%
2. 研究に関する質問がしやすい/質問に回答しやすい	58	54.7%
3. 研究の透明性が高まる	12	11.3%
4. 生活のリズムを整えやすい	60	56.6%
5. 防犯/防災上安全である	36	34.0%
6. 節電につながる	6	5.7%
7. 社会生活を送る上で心の準備が出来る	15	14.2%
8. その他	3	2.8%
9. 利点はない/コアタイムにはデメリットのほうが大きい	6	5.7%



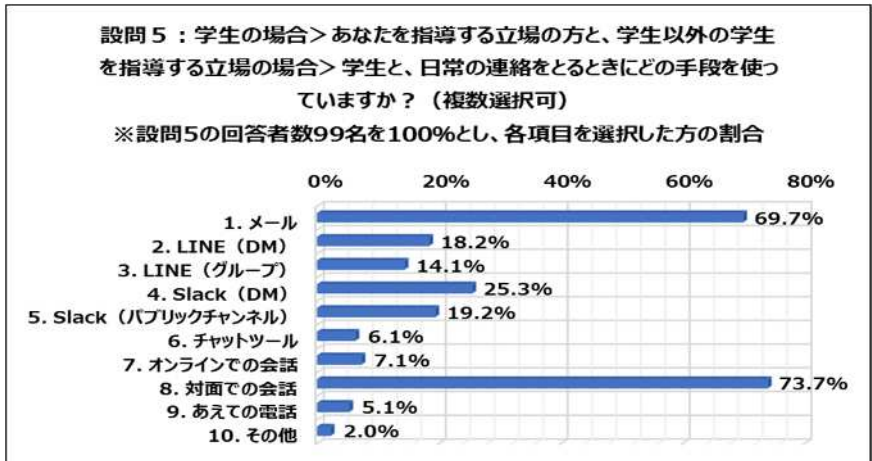
設問3：現在の研究室での研究ディスカッションの方法/頻度について最も近いものを選んでください。(3つまで選択可)		
☆：設問3の回答者数99名を100%とし、各項目を選択した方の割合		☆
1. 毎日の進捗報告	3	3.0%
2. 週数回の進捗報告	10	10.1%
3. 月数回のミーティング (週1回を含む)	55	55.6%
4. 月1回のミーティング	16	16.2%
5. 年数回のミーティング	24	24.2%
6. 研究結果が出たらその都度報告する	64	64.6%
7. その他	3	3.0%



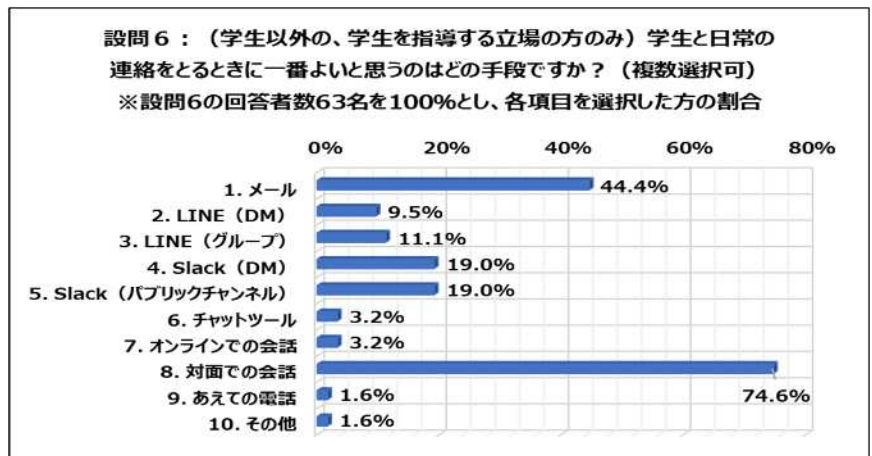
設問4：現在の研究室での研究ディスカッションの方法/頻度について増やしたほうがいい(有効だ)と思うものを選んでください。(3つまで選択可)		
☆：設問4の回答者数106名を100%とし、各項目を選択した方の割合		☆
1. 毎日の進捗報告	9	8.5%
2. 週数回の進捗報告	11	10.4%
3. 月数回のミーティング (週1回を含む)	40	37.7%
4. 月1回のミーティング	20	18.9%
5. 年数回のミーティング	12	11.3%
6. 研究結果が出たらその都度報告する	56	52.8%
7. その他	3	2.8%



設問5：学生の場合>あなたを指導する立場の方と、学生以外の学生を指導する立場の場合>学生と、日常の連絡をとるときにどの手段を使っていますか？(複数選択可)		
☆：設問5の回答者数99名を100%とし、各項目を選択した方の割合		☆
1. メール	69	69.7%
2. LINE (DM)	18	18.2%
3. LINE (グループ)	14	14.1%
4. Slack (DM)	25	25.3%
5. Slack (パブリックチャンネル)	19	19.2%
6. チャットツール	6	6.1%
7. オンラインでの会話	7	7.1%
8. 対面での会話	73	73.7%
9. あえての電話	5	5.1%
10. その他	2	2.0%



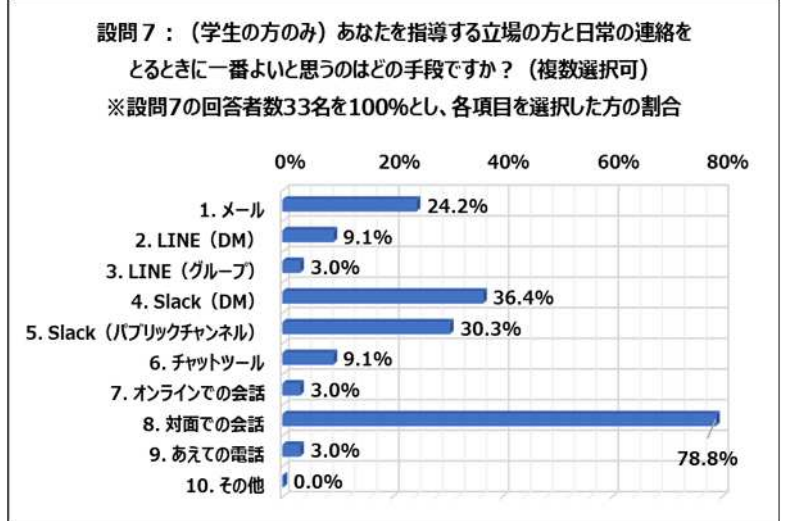
設問6：(学生以外の、学生を指導する立場の方のみ) 学生と日常の連絡をとるときに一番よいと思うのはどの手段ですか？(複数選択可)		
☆：設問6の回答者数63名を100%とし、各項目を選択した方の割合		☆
1. メール	28	44.4%
2. LINE (DM)	6	9.5%
3. LINE (グループ)	7	11.1%
4. Slack (DM)	12	19.0%
5. Slack (パブリックチャンネル)	12	19.0%
6. チャットツール	2	3.2%
7. オンラインでの会話	2	3.2%
8. 対面での会話	47	74.6%
9. あえての電話	1	1.6%
10. その他	1	1.6%



設問7：（学生の方のみ）あなたを指導する立場の方と日常の連絡をとるときに一番よいと思うのはどの手段ですか？（複数選択可）

☆：設問7の回答者数33名を100%とし、各項目を選択した方の割合

1. メール	8	24.2%
2. LINE (DM)	3	9.1%
3. LINE (グループ)	1	3.0%
4. Slack (DM)	12	36.4%
5. Slack (パブリックチャンネル)	10	30.3%
6. チャットツール	3	9.1%
7. オンラインでの会話	1	3.0%
8. 対面での会話	26	78.8%
9. あての電話	1	3.0%
10. その他	0	0.0%



設問8：研究室メンバーとの研究以外のコミュニケーション（対面の場合は全て所属機関の感染対策をとりながら）について、コロナ禍以降に実施（復活）したものはありますか？（複数選択可）

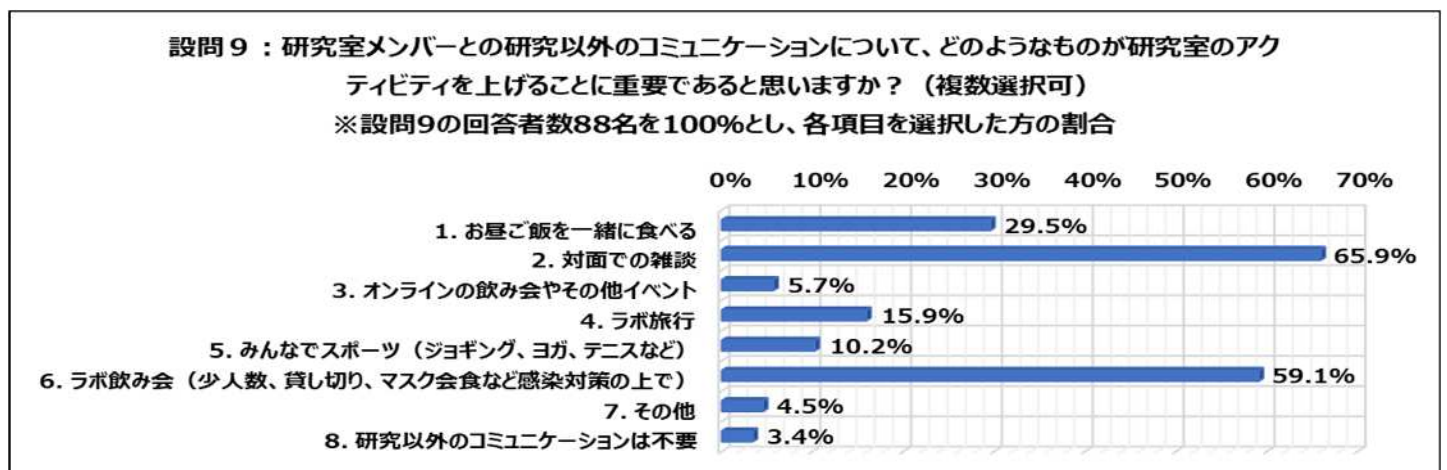
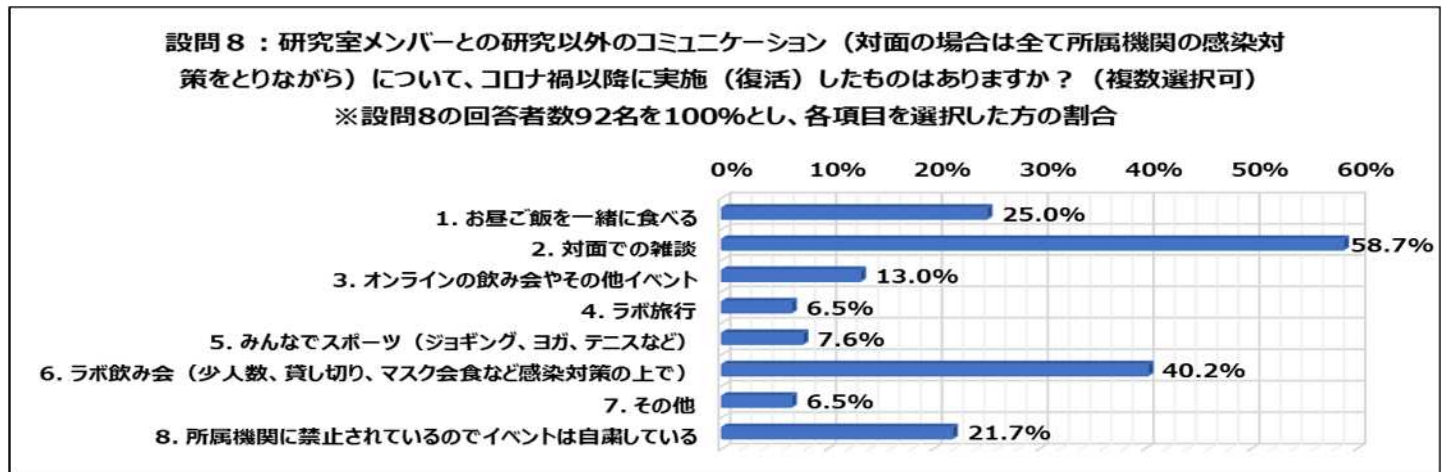
☆：設問8の回答者数92名を100%とし、各項目を選択した方の割合

1. お昼ご飯を一緒に食べる	23	25.0%
2. 対面での雑談	54	58.7%
3. オンラインの飲み会やその他イベント	12	13.0%
4. ラボ旅行	6	6.5%
5. みんなでスポーツ（ジョギング、ヨガ、テニスなど）	7	7.6%
6. ラボ飲み会（少人数、貸し切り、マスク会食など感染対策の上で）	37	40.2%
7. その他	6	6.5%
8. 所属機関に禁止されているのでイベントは自粛している	20	21.7%

設問9：研究室メンバーとの研究以外のコミュニケーションについて、どのようなものが研究室のアクティビティを上げることに重要であると思いますか？（複数選択可）

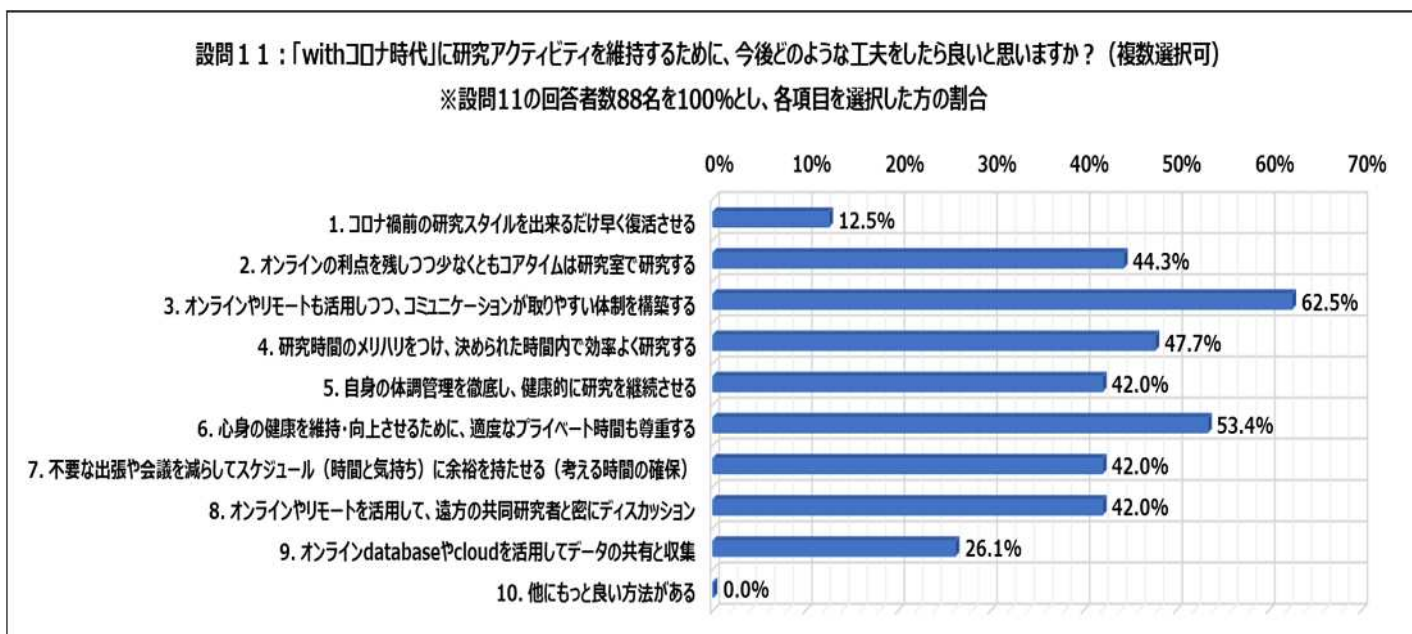
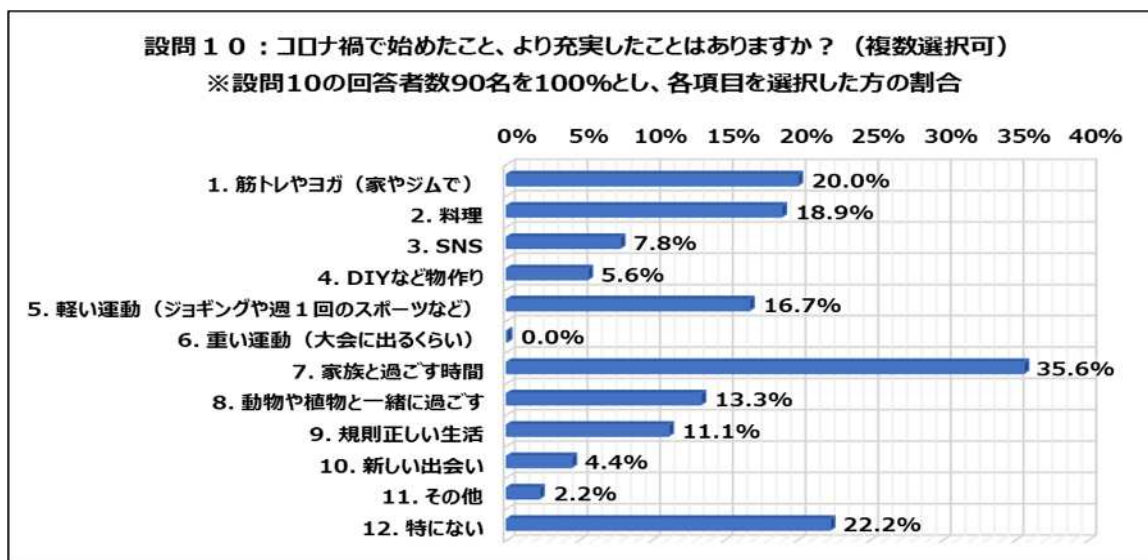
☆：設問9の回答者数88名を100%とし、各項目を選択した方の割合

1. お昼ご飯を一緒に食べる	26	29.5%
2. 対面での雑談	58	65.9%
3. オンラインの飲み会やその他イベント	5	5.7%
4. ラボ旅行	14	15.9%
5. みんなでスポーツ（ジョギング、ヨガ、テニスなど）	9	10.2%
6. ラボ飲み会（少人数、貸し切り、マスク会食など感染対策の上で）	52	59.1%
7. その他	4	4.5%
8. 研究以外のコミュニケーションは不要	3	3.4%



設問10：コロナ禍で始めたこと、より充実したことはありますか？（複数選択可）		
☆：設問10の回答者数90名を100%とし、各項目を選択した方の割合		☆
1. 筋トレやヨガ（家やジムで）	18	20.0%
2. 料理	17	18.9%
3. SNS	7	7.8%
4. DIYなど物作り	5	5.6%
5. 軽い運動（ジョギングや週1回のスポーツなど）	15	16.7%
6. 重い運動（大会に出るくらい）	0	0.0%
7. 家族と過ごす時間	32	35.6%
8. 動物や植物と一緒に過ごす	12	13.3%
9. 規則正しい生活	10	11.1%
10. 新しい出会い	4	4.4%
11. その他	2	2.2%
12. 特になし	20	22.2%

設問11：「withコロナ時代」に研究アクティビティを維持するために、今後どのような工夫をしたら良いと思いますか？（複数選択可）		
☆：設問11の回答者数88名を100%とし、各項目を選択した方の割合		☆
1. コロナ禍前の研究スタイルを出来るだけ早く復活させる	11	12.5%
2. オンラインの利点を残しつつ少なくともコアタイムは研究室で研究する	39	44.3%
3. オンラインやリモートも活用しつつ、コミュニケーションが取りやすい体制を構築する	55	62.5%
4. 研究時間のメリハリをつけ、決められた時間内で効率よく研究する	42	47.7%
5. 自身の体調管理を徹底し、健康的に研究を継続させる	37	42.0%
6. 心身の健康を維持・向上させるために、適度なプライベート時間も尊重する	47	53.4%
7. 不要な出張や会議を減らしてスケジュール（時間と気持ち）に余裕を持たせる（考える時間の確保）	37	42.0%
8. オンラインやリモートを活用して、遠方の共同研究者と密にディスカッション	37	42.0%
9. オンラインdatabaseやcloudを活用してデータの共有と収集	23	26.1%
10. 他にもっと良い方法がある	0	0.0%



No	User Name	Question text
1	Anonymous	先生のファンです！！
2	Anonymous	すごいです！
3	Anonymous	エリナさん、がんばれ！
4	50代PI	コアタイムはPIではなく、スタッフが勝手に作ったが、基本的には守られていない。守られていないことを許容することで、コアタイムがあることが効果をはきしている。
5	Anonymous	楽しいです（'∩'）
6	Anonymous	オンラインだと自分の発表以外は参加していないことが多い
7	Anonymous	ハイインパクトジャーナルを目指すことが悪いことのように言われていることが良くない気がするけど
8	Anonymous	毎年楽しいので！！
9	博士課程学生A	コアタイムってなんのためにあるの？
10	Anonymous	来なければいけない時間を決めています。
11	Anonymous	実際のコアタイムがなくても、心理的なコアタイムがある。。か。
12	匿名	夜の参加しにくい業務、会議をなくすため、コアタイムを定めてほしい
13	匿名	教授の生活リズムに合わせたコアタイムで生活リズム合わない…。
14	Anonymous	コアタイムあったら、バイトしにくいです
15	Anonymous	夜型になると問題が起きがち。
16	Anonymous	コアタイムのせいで休みにくくなるイメージです
17	Anonymous	コアタイムは社会に出る練習ではないか。
18	TU	コンコンと説得しますが、最後はこちらが力尽きました。
19	40代PI	配属時に朝来る時間は必ず守るように伝えている。守れないなら配属希望出さないようお願いしている。
20	Anonymous	来ない学生に強くは言えない。でも言わないと指導放棄と言われかねない。難しい。。。
21	Anonymous	コアタイムにいない場合には就活など正当な理由が必要だと思います
22	Anonymous	私大なのでコアタイムを設けたら研究室がパンクします
23	Anonymous	結局は個人の責任でやってもらえない。
24	Anonymous	PIは学生を、「コアタイムに滞在するかどうか」よりも、「期限内に成果を出したか」で評価すべきでは？
25	Anonymous	研究を進めることが大前提とされている管理側と、カリキュラム上仕方なく研究室に来て研究の進展には特に無関心な学生との乖離があると思います。
26	Anonymous	一人で静かに思索する時間があることは意外といいですよ
27	Anonymous	人間関係が良好であればコアタイムが無くても自然と人が集うのではないか
28	Anonymous	コアタイムがある研究室は人気下がると聞きました
29	Anonymous	コアタイムを守れない時に連絡できることが重要か？
30	Anonymous	やる事が終わっても帰れない空気があるのがストレスです
31	Anonymous	コアタイムはあるのですが守らない学生がほとんど。でも怒れません。会議にいつも遅刻している私からは
32	Anonymous	コアタイムはきっちりしていなくてもいいのですが、日中ラボにいない人の分の雑務(学生さんの指導、納品業務、共通試薬、機器のメンテナンス)が増えていくので、真面目にやって損だと思ふことがある。
33	Anonymous	ラボメンバーには、普段より遅れてラボに来る理由がある時、在宅ワークにする時は、Slack投稿でラボメンバー全員宛に伝えるように要求していますが、これはみんなちゃんと守ってくれています。
34	40代PI	進捗があってもなくても全員必ず週一で話をするようにしている。
35	Anonymous	研究結果が出た時より、出ない時、うまく行かない時に相談することが重要だと思います
36	Anonymous	生活リズムを揃えるためにコアタイムの開始時間は厳密に設定したほうが良いけど、帰る時間は強制しないほうが良いのかもしれない。
37	Anonymous	コアタイムがない場合の勤怠管理はどうしてるのでしょうか？
38	Anonymous	心地よい、というのは少し学術的で素敵だと思います
39	50代PI	私は学生時代は、PIが喜んでくれるのが嬉しくて実験していた。だから学生や若手が結果を持ってきたら、良くて悪くても嬉しく思う。
40	Anonymous	悪い結果、問題の時ほど持ってきて欲しいのに、と思う。
41	匿名	基本的には週1回、PIとの1on1ミーティングのみで、メンバーの誰かが自主的にやりたいと言ったタイミングで研究室のゼミ(論文or進捗)をする
42	Anonymous	ネガティブな結果でも話しやすい雰囲気があると嬉しいです…
43	Anonymous	ミーティングの頻度が少ないと進捗が遅れる
44	Anonymous	PIにとっても定期的にディスカッションした方が良い。忙しくて細かいことを忘れがちになるので。
45	Anonymous	コアタイムは卒研生が多い研究室ほど必要性が高いと思われるのでは。
46	40代PI	週1回、全員と個別ディスカッションをしているが、次の一手に関するdecision makingするような実験結果の報告はすぐしてくれた方がお互いに望ましいので、そういう時はすぐに報告してほしい。
47	Anonymous	「先生!! スゲー結果が出ました!!」という言葉を聞いたらきっと若返るんだろうな
48	Anonymous	学生にはPIにどんなデータでも報告する義務があるのではないかと、PIの研究費を使ってるのであれば
49	Anonymous	研究のモチベーションが上がる過ごし方を、各々が自分で見つけるべき！我々はコアタイムがなくても遅くまでいるし、早く帰ることもある！
50	Anonymous	学生としては指導教官から進捗を聞きに来てほしい笑

No	User Name	Question text
51	Anonymous	忙しいのはわかりますけど、それでイライラされるのは困る。
52	Anonymous	就職するまでの学生(院も)時代は自由でいたいらしいので縛ると逆効果かも
53	40代PI	Slackが自動消去してしまう改変は本当に困っています
54	Anonymous	お恥ずかしながら、slackを知りませんでした…
55	Anonymous	メールや Slack での連絡だと文語調になって硬い印象を与えがちなので、萎縮させないようなメッセージを考えるのが意外と苦労します。
56	匿名	対面で優しく聞くのは簡単だがメール等だと一方的、きびしくなるのが心配
57	Anonymous	機嫌によって毎回言うことが変わるのは困る
58	Anonymous	slackは90日で消えてしまうので、記録の意味でもメール
59	Anonymous	私もslack分かりません
60	Anonymous	学生としては、メールの返信をどこまですればいいか悩みます！
61	Anonymous	Slack使ってみたい
62	Anonymous	スラックは既読が行方不明になるので
63	Anonymous	slack 有料版を使っていますが、古いログもすぐ掘り出せて非常に便利です。
64	40代PI	Slackは読んだらスタンプ押して、みたなのが便利 ♪
65	Anonymous	記録すべきことはメールで、対面会話の代わりはSlackです
66	Anonymous	うちの大学だとteamsです
67	Anonymous	メールが多すぎて行方不明になりがち
68	Anonymous	Slack の反応をスタンプで済ませているのか、教育との距離感が掴めていない
69	Anonymous	本気で相手のためを思っているときは対面、「指導をしましたよ」的な時はメール。
70	Anonymous	Slackは先生も学生もスタンプでリアクションするので楽です ♪
71	Anonymous	個人LINEをラボで使うのは抵抗がある。誤爆も怖い
72	Anonymous	メールが長いのは恐怖感がある
73	修士学生	たまにはメールを使わないと、社会に出たときに困ると思う。
74	Anonymous	連絡を取り始めるきっかけが重要なかなと思います。話しかけづらいとか…
75	Anonymous	メールよりSlackのほうが気軽に連絡できます (学生)
76	Anonymous	公私が混ざりそうであまり先生とラインで会話したくない
77	Anonymous	井関先生wwwww
78	Anonymous	LINEは嫌です
79	40代PI	メールでちゃんと意思疎通できるようになることは、プレゼン能力の向上に効果があると思う
80	Anonymous	LINEやslackは気軽によいが、メールを使うことも社会人になる前にビジネスルールを身につけるいい機会になると思う。
81	Anonymous	対面だと学校に来ないと行けないのですが学生は負担にかんじないのでしょうか
82	Anonymous	公私が混ざりそうで、学生とライン、DMで会話できません
83	Anonymous	メールは簡潔に文章を作る練習だと思ってる
84	Anonymous	LINEはプライベートアカウントと混同するのが問題なので、LINE worksという別アプリがあるのでいいと思います。
85	40代PI	ツールはなんでもいいけれど、なんでも気軽に話せる関係性を築くことが大切だと思う
86	Anonymous	対面でも slack でも、コミュニケーションそのものの取り方、つまり人に状況を説明するイロハを習得してもらおうと努めるのですが、消耗することがあります。。忍耐強く要点を聞き取ろうとしても何が言いたいかわからない。。
87	Anonymous	slackを使う理由もよくわからない。なぜメールではダメなの???
88	Anonymous	メールは大学からや就活サイトからのメールが多く、PIからの重要なメールが埋もれやすい
89	Anonymous	企業側から言えば、メールを打つ機会は確実に減ってきています。teamsでのコミュニケーションがメインです
90	匿名	先生のITスキルの問題でメールでしか連絡ができない
91	Anonymous	メールは無駄が多い
92	Anonymous	禁止されていないが実施していない
93	Anonymous	コロナ前から研究以外の話は学生とはしないのでイベントも無かったです
94	Anonymous	数年ぶりにBBQしてとても楽しかった
95	40代PI	私学は未だに厳しく制限されています
96	Anonymous	スラックのアカデミア用割引 (85%オフ) を利用してます
97	40代PI	一緒に学会に行くと飲むとラボに一体感が出ると思う
98	Anonymous	ラボのみんなでオンラインゲームします
99	Anonymous	コロナ以降ダラダラした飲み会が少なくなってよい
100	Anonymous	上司とのLINEはイヤ。

No	User Name	Question text
101	Anonymous	教員なしでも学生が飲み会していれば、人間関係が上手くいく
102	40代PI	若い子は飲み会嫌がると聞いていたが、結構やりたがる子も多いことに驚いた
103	Anonymous	コロナで面倒なイベントが減ってむしろ良かった
104	Anonymous	コロナ前は飲み会が苦痛だったが、今、再開するととても楽しい。
105	Anonymous	飲食が伴わなくても良いので、研究と関係なくてもざっばらんに話せる機会が欲しいです
106	Anonymous	ラインだと学生が夜中に質問してきても対応しないといけなくて大変n。休みがなくなった感じ
107	Anonymous	飲むことを強要されるような飲み会は廃止されるべき
108	Anonymous	お酒の好きな先生のラボが飲み会我慢しているのだから私のラボではできません
109	Anonymous	学会に対面で参加したがる学生は飲み会も好きな割合が多い気がする…母集団バイアス
110	Anonymous	先生の扱い方などを伝える（知る）ためにも学生同士の飲み会などが必要だなと感じます。
111	Anonymous	部下とのラインも嫌
112	Anonymous	ゲストが来られる度に、異なる顔ぶれを誘って少人数での対面食事会（飲み会）に優るものはないと感じています。もちろん強制ではありません。オンライン飲み会も、最初の2～3回でもういいかなってなってませんか。
113	Anonymous	ラボメンバーには小さなお子さんがいて飲み会参加が難しい人もいます
114	Anonymous	飲み会が多いと首が回らないです
115	Anonymous	若い人はラボイベントには消極的で仕方なく参加しているように感じる。企業でも最近はやらないのではないかな。
116	40代PI	ケーキパーティーやってます
117	Anonymous	飲み会が多いと首が回らないです
118	Anonymous	飲み会はやりたい人だけでやって、嫌いな人は参加しなくて良い、誰にとっても心地よい状態に今なっている。
119	Anonymous	ただただつまらない人間が出来上がりました…。
120	Anonymous	コロナ禍に出産したので生活スタイルが一変しました
121	Anonymous	サブスクで映画をたくさん観るようになりました
122	Anonymous	優勝 おめでとう！！
123	Anonymous	ユーチューバーなのですが、コロナ中はやる気が起きなくて滞りました
124	博士 20代	コロナ禍のせいで、ラボメンバーマスク以外知りません
125	Anonymous	家族がいないので孤独です…
126	40代PI	木村先生、全く同感です
127	Anonymous	コロナ禍になって地元の友人とオンラインで通話したりゲームをする機会が増えたので、仲間が少ない博士課程期間の貴重なコミュニケーション機会になっています。
128	Anonymous	コロナでなくともプライベートを大事にできる環境を作ってほしい
129	Anonymous	Snsはツイッター、フェイスブック、インスタグラム、リンクドイン、ティックトック、など一通りやってます
130	Anonymous	コロナ禍を満喫したのはPIだけだと思う
131	Anonymous	企業です。コミュニケーションのツールとして、お菓子が置いてあるディスカッションルームや、お酒が飲めるバーカウンターができました。2人以上いれば利用できます。
132	Anonymous	話戻りますが、slackでの連絡やオンライン状態の可視化で先生が時間を気にせず働いているのを感じると、その時間に研究ができていない自分がダメに思ってしまうのが辛いです
133	Anonymous	コロナ前より忙しくなり新しいことは始められていません
134	Anonymous	オンライン会議になって、出張の移動に費やしていた時間を、関連論文の読み込みに注ぐことができて研究にはすごくプラスになった。
135	40代PI	教授会がzoomになったのが最高です
136	Anonymous	オンライン化のせいで会議が増えて潰れそう。。。
137	Anonymous	オンラインツールのセキュリティ面は不安
138	40代PI	海外の学会やトークにオンラインで参加できるのはいいけど、やっぱりオンサイトの学会も大事だと感じるようになった
139	Anonymous	大学や、研究室の規模、メンバーの属性(ポスドクが多いか、卒研生が多いか、で運営の方法がかなり変わってくると思います。
140	Anonymous	コロナのおかげでウイルスの勉強、復習をすることができました